

| | | | | | | | |
|--|--|-----|------|---------|-----------------|-------|----------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 博物館実習 C(CB402) | | | 担当教員 | 落合 知子 | | |
| 展開方法 | 実習 | 単位数 | 1 単位 | 開講年次・時期 | 4 年・集中 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ・ラーニングの類型 |
| 博物館実習 A・B を通して修得した技能や知識を前提に、学部における博物館学芸員課程の総仕上げとして 2 週間程度 (10 日間以上) の期間、実際の博物館施設において実務に従事し、学芸員の実務を学ぶ。 | | | | | | | ⑦⑩ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | 学芸員に求められる技能や知識を修得できる。 | | | | 資料の取扱い方、展示 | 10% | |
| 情報収集、分析力 | | | | | | | |
| コミュニケーション力 | 館園実習館の活動について自分の考えや意見を述べるができる。 | | | | 受講者の発表 | 30% | |
| 協働・課題解決力 | 授業内で実施する課題提示に対するグループディスカッション及びプレゼンテーションを通して、博物館展示を来館者としてではなく、学芸員の眼でみるができる。 | | | | 実習先指導学芸員の評価実習日誌 | 60% | |
| 多様性理解力 | | | | | | | |
| 出 席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合 計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 実習日誌の内容や実習先指導学芸員の評価、実習中の実務態度、実習後の発表などから総合的に評価する。フィードバックは適宜実施する。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| 本実習は、実習にあたっての心構え(学芸員の倫理、社会人としてのルールやマナー、発表の方法等)についての事前指導と博物館施設で 2 週間程度(10 日間以上)の期間の実務実習、実習日誌をもとに地域における学芸員の存在意義や学芸員の仕事について口頭で発表を行う事後指導で構成される。実習先は事前に実施する「博物館希望調査」をもとに担当教員が人数等を調整し、派遣先を伝え、履修者は自身で博物館実習の申し入れを行う。(※ハウステンボス美術館を除く) この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。 | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| 指定図書：日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい(2012) | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| 実習先によって実習費が発生する場合がある。(参考：ハウステンボス美術館 5,000 円、諫早美術・歴史館 8,000 円) 履修する学生は、アルバイト体験とは異なる「就業・実務」の実習であることを理解し、責任を持って行動することが求められる。また、到達目標である地域における学芸員の存在意義や学芸員の仕事を説明できるようになるために、明確な意識を持ち、健康や態度、服装等十分に留意する。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|-----|------|---------|-----------------|-------|----------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 博物館実習 C(CB402) | | | 担当教員 | 小泉 優莉菜 | | |
| 展開方法 | 実習 | 単位数 | 1 単位 | 開講年次・時期 | 4 年・集中 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ・ラーニングの類型 |
| 博物館実習 A・B を通して修得した技能や知識を前提に、学部における博物館学芸員課程の総仕上げとして 2 週間程度 (10 日間以上) の期間、実際の博物館施設において実務に従事し、学芸員の実務を学ぶ。 | | | | | | | ⑦⑩ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | 学芸員に求められる技能や知識を修得できる。 | | | | 資料の取扱い方、展示 | 10% | |
| 情報収集、分析力 | | | | | | | |
| コミュニケーション力 | 館園実習館の活動について自分の考えや意見を述べるができる。 | | | | 受講者の発表 | 30% | |
| 協働・課題解決力 | 授業内で実施する課題提示に対するグループディスカッション及びプレゼンテーションを通して、博物館展示を来館者としてではなく、学芸員の眼でみる事ができる。 | | | | 実習先指導学芸員の評価実習日誌 | 60% | |
| 多様性理解力 | | | | | | | |
| 出 席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合 計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 実習日誌の内容や実習先指導学芸員の評価、実習中の実務態度、実習後の発表などから総合的に評価する。フィードバックは適宜実施する。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| 本実習は、実習にあたっての心構え(学芸員の倫理、社会人としてのルールやマナー、発表の方法等)についての事前指導と博物館施設で 2 週間程度(10 日間以上)の期間の実務実習、実習日誌をもとに地域における学芸員の存在意義や学芸員の仕事について口頭で発表を行う事後指導で構成される。実習先は事前に実施する「博物館希望調査」をもとに担当教員が人数等を調整し、派遣先を伝え、履修者は自身で博物館実習の申し入れを行う。(※ハウステンボス美術館を除く) この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。 | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| 指定図書：日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい(2012) | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| 実習先によって実習費が発生する場合がある。(参考：ハウステンボス美術館 5,000 円、諫早美術・歴史館 8,000 円) 履修する学生は、アルバイト体験とは異なる「就業・実務」の実習であることを理解し、責任を持って行動することが求められる。また、到達目標である地域における学芸員の存在意義や学芸員の仕事を説明できるようになるために、明確な意識を持ち、健康や態度、服装等十分に留意する。 | | | | | | | |